

何かを考えさせる。	文化を持つ多民族の人々が社会を形成し共生して行くには、どんなことが問題や、障害になり、それらをどうすれば解決して行けるのかをグループで討論する。④グループごとに討論の結果を発表する。	ンのCD、メッカ磁石、 ②1プリント
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>3限目：本当の豊かさとは ねらい：・ウルパンガス村でのホームステイ体験を伝え、物資的に恵まれた（自分たち）日本人との生活を比較する。・便利な生活をしていても、長い通勤や労働、家族とのふれあいが少ないことなどを考え、豊かさとは、心の豊かさや、自然環境の大切さが重要であることを気付かせる。</p>	<p>①写真を使用し、ウルパンガスの村民の生活を紹介する。②直接飲料できない水道・夜間の発電機による電気など、ライフラインが日本より不便な村の生活について、自分たちの生活と比較しながらグループで討論させる。不便さの強調だけでなく、自然の中で生活する楽しさ、新鮮な空気、時間のゆとりを伝え、豊かさの尺度を考えさせる。③グループごとに討論の結果を発表する。グループ全員の意見を記入する。④自分たちの生活と比較しながら、個人の感想をまとめる。</p>	<p>①村の写真（村全景・家屋・家庭のトイレ・地酒（タパイ）造り・天然ゴムの採取・タバコの葉の裁断など） ②2プリント</p>

<p>4 限目：油ヤシプランテーションと熱帯林破壊 ねらい：油ヤシプランテーションで生産されるパーム油の現状と、消費者である私たち日本とのつながりを認識させる。パームオイルを通して、私達の経済活動の中で、普段の生活では見えにくい部分の問題に気付かせる視点を持たせる。</p>	<p>①パーム油に関連する写真を使用し、油ヤシプランテーションの様子、パーム油の生産工程、用途、製品を説明する。パーム油が何の原料になっているかを紹介し、(自分たち)日本の食品や日常生活で欠かせない物になっていることに気付かせる。 ②DVD「宇宙船地球号1」の登場人物のそれぞれの立場を確認する。 ③パーム油についてのO×問題に答え、基礎知識を深める。 ④油ヤシプランテーションとパーム油に関係する人々を、登場人物から導き出し、様々な立場を持った人々が存在することを認識させる。</p>	<p>①パーム油についての写真(房・実・木・パーム農園全景・製造工場・製造過程・パーム油製品/お菓子/洗剤) ②DVD鑑賞「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え～ ③3プリント Aパーム油とは ④3プリント B登場人物</p>
<p>5 限目「持続可能な開発」 ねらい：・経済活動に関わるそれぞれの立場を考え、課題/問題を考える視点を持たせる。</p>	<p>①DVD「宇宙船地球号2」の登場人物の立場を確認しながら、それぞれの人達が油ヤシプランテーションとパーム油の問題に対してどんな取り組みをしたかを確認させる。</p>	<p>①DVD「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え2～</p>
<p>時限・テーマ・ねらい</p>	<p>方法・内容</p>	<p>使用教材</p>

<p>・企業が生産する製品（もの）に対する考え方を消費者という立場から、安全／安心／環境を意識したものであるかどうかを常に考える必要があることに気づかせる。・地球環境を守るという立場から、私たちが日常生活で使っているものの、来し方と行き方を考える視点を持たせる。・「持続可能な開発」とはどうすれば達成して行けるのかを、自分の足下から、地球規模で取り組むことまで、広く考えさせる。</p>	<p>②（自分たち）日本とマレーシア（パーム油）とのつながりが見えにくいのはなぜかを問い、経済がグローバル化していることを認識させる。 企業のパーム油が地球に優しく、エコであるというイメージについて、正しいかどうか、消費者の立場から考察させる。 ③油ヤシプランテーションに関係する人々の立場を認識させ、それぞれの立場でどうすれば、自然と生態系を護れるかを考えさせる。 ④有限な資源、秩序のない開発と経済発展が地球上の様々なところで起こっていることを認識させ、「持続可能な開発」とはどうすれば可能なのかを考えさせる。 ⑤油ヤシプランテーションを通して知ったこと、認識したことをつかって、自分の身の回りからできること、取り組めることを考えさせる。 ⑥全体の感想をまとめる。</p>	<p>②3プリント Cマレーシアとのつながり ③3プリント D油ヤシプランテーションに関係する団体・人々（A 生産者・B パーム油関連企業／サラヤ・C 消費者／私たち・D マレーシア政府／公的機関・E 日本政府／輸入国・F 自然保護団体／NPO） ④3プリント E「持続可能な開発」 ⑤3プリント F自分にできること ⑥3プリント G全体の感想</p>
---	---	--

・使用教材・・・（2）授業の構成案 右欄に表示

- 1 限目 東南アジア白地図、各写真（国立博物館前壁画・KLツインタワー・公衆トイレ・サンダカン日本人墓地・ホテルのドリアン持込禁止表示板・自動車の暖房無しのアエアコン）、ドラエモンDVD・セパタクローのボール、籐の製品、マレーシア国旗、
- 2 限目 各写真（イスラム寺院・礼拝所・アザーンの時刻時計・アザーンの時刻新聞・マレー／中／印の民族衣装、他民族の生徒が通う学校の様子）、クルアーンのCD、メッカの方位磁石、1プリント、
- 3 限目 村の写真（村全景・家屋・家庭のトイレ・地酒（タパイ）造り・天然ゴムの採取・タバコの葉・の裁断など）、2プリント、
- 4 限目 パーム油についての写真（房・実・木・パーム園全景・製造工場・製造過程・パーム油製品／お菓子／洗剤）、DVD鑑賞「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え～、3プリント（Aパーム油とは、B登場人物）
- 5 限目 DVD「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え2～、3プリント（Cマレーシアとのつながり、D油ヤシプランテーションに関係する団体・人々、E「持続可能な開発」、F自分

にできること、G全体の感想)

・授業の様子

- 1 限目 マレーシアはどんな国：生徒が興味を持つようにマレーシアに関連する写真を見せながら、歴史・基礎知識を「1プリント」で紹介した。生徒同士が言葉を発してコミュニケーションをとるよう、マレー語での挨拶を交わしたり、マレーシア関連の写真を分割配布しグループ分けを行い何の写真かをグループで考えさせ発表させた。日本とマレーシアの関係を戦前と戦後に分け説明し、2国間の関係を認識させた。
- 2 限目 イスラム教の説明と、信仰の意味を説明し、イスラム教という異なる宗教への理解を深め、誤解を解いた。また、中国系やインド系の生活も説明し、生徒は他民族・異教徒同士が共生するための問題や考え方をグループで話し合った。
- 3 限目 ウルパンガス村でのホームステイ体験の関連写真を分割配布しグループ分けを行い、何の写真かをグループで考えさせ発表させた。ホームステイで体験した驚き・感動を素直に伝え、不便さの強調だけでなく、自然の中で生活する楽しさ、新鮮な空気、時間のゆとりなど、違う角度からの豊かさの尺度を説明した。この後、生徒たちに、自分たちの生活と比較しながらグループで討論させ、グループごとに討論の結果を発表させた。
- 4 限目 パーム油に関連する写真を使用し、油ヤシプランテーションの様子、パーム油の生産工程、用途、製品を説明し、油ヤシプランテーションの功罪と問題点を提起した。「3プリント」でパーム油のO×問題でパーム油の基礎知識を学習し、自分たち日本の食品や日常生活で欠かせない物になっていることを説明した。パームオイルと私たちとの繋がりと、その繋がりの見えにくさを考えさせ、経済がグローバル化していることを認識させた。DVD「宇宙船地球号1」～ボルネオ象を救え～を鑑賞し、油ヤシプランテーションとパーム油に関係する人々を、登場人物から導き出し、様々な立場を持った人々が存在することを認識させる。
- 5 限目 DVD「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え2～を鑑賞し、登場人物の6者を確認しながら、それぞれの人達が油ヤシプランテーションとパーム油の問題に対してどんな取り組みをしたかを確認させる。グループに分かれ6者の1つずつを担当させ、それぞれの立場から「持続可能な開発」をテーマに、自然と生態系を護るためには、どんな取り組みができるのかをグループごとに考えさせ発表させた。まとめとして、パームプランテーションだけでなく、他にも有限な資源、秩序のない開発と経済発展が地球上の様々な地域で起きていることを認識させ、「持続可能な開発」を考えていくことが必要なことを確認した。そして、生徒自身が、何ができるのかを、認識したことをつかって、自分の身の回りからできること、取り組めることを考えさせた。

・生徒の反応、評価

生徒たちにとって、馴染みのないマレーシアが、様々な面で日本との関わりが深いことに驚いたという感想が多かった。イスラム教に対するイメージが変わり、信仰についての理解が認識できた生徒できたという意見が多かった。ウルパンガス村での私の体験談は、カルチャーショックを感じたり不便さに良いイメージを持たない生徒が多かったようだが、反面、

忙しく働く親の姿や、時間に追われる自分の毎日と照らし合わせ羨ましがれる感想も多かった。パームオイルと「持続可能な開発」については、DVD「宇宙船地球号」～ボルネオ象を救え1/2～を鑑賞しそれぞれの立場からこの問題について考えることがおもしろかったという意見が多かった。

・今後の課題

それぞれの説明に時間をとられ、生徒たちが考える時間が少なくなってしまった。パームオイルに関連する資料について、数字もデータだけでなく図や、グラフなどの生徒たちが見やすいものをつくれなかった。

・所感

生徒たちには、夏休み前から研修の説明をして、現地での「JAPANBOX」のアイデアを出してもらい、前ふりをしておいたので、どんな反応が返ってくるのか、授業が始まるのを楽しみにしていた生徒もいたようだ。生徒たちにとって馴染みのないマレーシアが、歴史・貿易・経済援助など様々な面で日本との関係が予想以上に深いことに驚いたようだ。イスラム教については、イラク戦争が始まってから、ネガティブなイメージを持っている生徒が多いようで、それを払拭できるよう信仰の内容と理由説明に力点を置いた。ウルパンガス村での体験は、「豊かさ」という視点から、文化の違いや不便さを伝えながら、生徒たちの物資にあふれた便利な生活に感謝する気持ちを考えさせることができた。また、学校の授業が偏差値偏重になっていることへの疑問、時間に追われ忙しく働くことがあたりまえになっている社会の現状など、自分の生活や社会の価値観に一石を投じ、学びや豊かさの尺度を考えさせることができた。パームオイルと「持続可能な開発」については、生徒たちには環境破壊の責任を追究するだけでなく、それぞれの立場で関わる人々がいて、簡単には問題解決ができないことを認識させ、社会にとってのバランスの重要性を考えさせることができた。そして、国際人として地球の未来を考えられること、その一歩として自分が何を知り、どんな行動ができるのかを考えることであり、本校の校訓である「一隅を照らす」「己を忘れて他を利す」「能く行い、能く言う」の実践であることを伝えることができた。